

伊賀市「事務事業評価」結果総括シート〔2次評価シート〕

(1)政策	コード	名称
	9	(4)自然と共生するうるおいあるまちづくり

(2)基本施策	コード	名称	(3)生活課題	19	空気がきれいで静かであり、豊かな自然の中で暮らせる
	19	①自然と共生する、住みよいまちをつくる			

(4)評価実施年度	平成 21 年度
(5)評価責任者職名	生活環境部長
(6)評価責任者氏名	山崎 猛夫
(7)評価者	

(9)継続・新規 (.21.22. 23.24)	コード	(10)事務事業名	コード	(11)担当部課名	(12)事業費(千円)			(13)H22投入人員		主な成果(新規事業の場合は目標)		1次評価結果								
					H20 決算額	H21 予算 額・補 正要求 額	H22 要求 見込額	人	人件費	(14)指標名	指標の数値		個別評価				(23) 総合 評価	(24) 方向性		
											(15) 20年度 (実績)	(16) 22年度 (目標)	(17) 指標の 単位	(18) 評価 類型	(19) 必要性	(20) 有効性			(21) 達成度	(22) 効率性
継続	427-3	環境保全活動推進事業	100200	生活環境部環境政策課	744	763	775	0.8	5,760	にぎわいフェスタ(環境ブース)入場者数	200	500	人	I	2	3	4	2	C	現状維持
継続	434	環境保全対策事業	100300	環境センター	657	1,407	1,407	2.7	19,440	① 環境基準達成率(達成検体数/総検体数)×100	0.933	1	%	I	4	3	3	2	B	現状維持

2次評価										(33)その他の改革改善点について
(25)1次評価修正有・無	(26)修正点	(27)修正の理由	(28)改革改善案修正の有・無	(29)修正点	(30)優先度区分	(31)方向性	(32)方向性の評価について			
有	事業の方向性を「変更」に	事業の必要性の評価が「2」と低い	無		3G	d				
有	達成度を「4」に効率性を「3」に総合評価を「A」に	達成度については、経営及び臨時ともに各種測定を適正に実施している。また、効率性については、組織の見直しにより人件費の縮減が可能であるが、現状においてはおおむね適切である。	有	各種測定結果を、環境施策に反映するため、組織の見直しと併せ県及び市の、環境政策課等関係部署との連携を強化すべきである。	2G	b		組織の見直しによりトータルコスト(人件費)を縮減すべきである。		